

表 栽培方法の違いと雑草乾物重および大豆「フクユタカ」の収量

試験区	中耕 培土	摘心	条間 (cm)	株数 (株/m ²)	雑草乾物重 (g/m ²)	着莢数 (莢/株)	着莢数 (莢/m ²)	子実重 (kg/a)
狭畦栽培	無	有	35	9.8	<0.1	171	1626	28.9
慣行条間栽培	有	有	70	4.8	2.9	246	1171	23.0
無中耕無培土栽培	無	有	70	4.8	14.0	244	1164	22.2

注1) 播種日は6月10日、摘心日は7月26日
 注2) 播種後にトルフルリン2.5%粒剤を6kg/10a全面土壌散布
 注3) 中耕培土栽培は大豆3葉期中耕培土を1回行った

大豆、早播き摘心に 狭畦栽培加え効果

フクユタカ 雑草防除

フクユタカ播種1カ月後の生育状況（左が狭畦栽培、右が慣行条間栽培）



県内の大豆「フクユタカ」では6月の早播きと

現場で使える！研究成果

9葉期ごろの摘心を組み合わせた早播き摘心技術が普及しているが、降雨によって中耕培土が実施できない場合雑草害が発生し収量が低下する。そこで、中耕培土を実施しなくても雑草抑制効果が期待できる狭畦栽培技術を、早播き摘心栽培に導入した場合の雑草防除効果を明らかにした。

早播き栽培において条間を35cmにした狭畦栽培は、条間70cmの慣行条間よりも主茎長が長くなるが、摘心を実施することで主茎長が短くなる。

狭畦栽培は慣行条間栽培と比較して生育初期の茎葉の繁茂が早いため、播種約1カ月後および摘心直後に地面にあたる光量が少なくなる。

雑草発生量も慣行条間の無中耕無培土栽培よりも少なくなる。1株当たりの着莢数は少なくなるが、株数が多いため着莢数が増加する。表。

狭畦栽培は茎葉が繁茂して地面に光が当たりにくくすることで雑草を抑制するため、生育初期の雑草は除草剤による防除を徹底する必要がある。

（農林技術開発センター
農産園芸研究部門
松葉一樹）